

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第4区分

【発行日】平成20年10月30日(2008.10.30)

【公開番号】特開2007-119853(P2007-119853A)

【公開日】平成19年5月17日(2007.5.17)

【年通号数】公開・登録公報2007-018

【出願番号】特願2005-313683(P2005-313683)

【国際特許分類】

C 22 C 21/10 (2006.01)

C 22 F 1/053 (2006.01)

C 22 F 1/00 (2006.01)

【F I】

C 22 C 21/10

C 22 F 1/053

C 22 F 1/00 6 1 2

C 22 F 1/00 6 2 6

C 22 F 1/00 6 3 0 K

C 22 F 1/00 6 3 0 A

C 22 F 1/00 6 3 1 Z

C 22 F 1/00 6 0 2

C 22 F 1/00 6 8 4 C

C 22 F 1/00 6 9 1 B

C 22 F 1/00 6 9 1 C

C 22 F 1/00 6 9 1 A

C 22 F 1/00 6 8 3

C 22 F 1/00 6 8 5 Z

C 22 F 1/00 6 8 6 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月10日(2008.9.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項1】

Zn: 3.0 ~ 10.0% (質量%、以下同じ)、Mg: 0.5 ~ 3.0%、Cu: 3.0%以下を含有し、さらにCr: 0.30%以下(0%を含まず、以下同じ)、Mn: 0.60%以下(0%を含まず、以下同じ)、Zr: 0.30%以下(0%を含まず、以下同じ)のうちの1種以上を含有し、不純物としてのFe、Siをそれぞれ0.25%以下に制限し、不可避不純物がそれぞれ0.05%以下であり、残部アルミニウムからなる組成を有するアルミニウム合金押出管のT4調質材をさらに熱処理したものであって、該熱処理前のT4調質状態における体積抵抗率をR0とし、熱処理後の体積抵抗率をR1としたときに、

R0 - R1 1.0 n m

を満たすことを特徴とする拡管加工性に優れた高力アルミニウム合金押出管。